

広報

青葉

第26号 平成26年11月15日発行

医療法人 青葉会
松江青葉病院

〒690-0015 松江市上乃木 5-1-8

TEL: 0852 (21) 3565 FAX: 0852 (21) 0111

Email : aoba@themis.ocn.ne.jp

URL : <http://www.matsueaoba.or.jp/>



【私たちの理念】

生きがいを見出すために

【基本方針】

患者様の人権を尊重し、より良い医療を提供する。

地域に貢献できる質の高い病院を目指す。

医療知識・技術を日々研鑽する。

～巻頭～

2013年、2014年は当院にとって、電子カルテの導入準備・導入・本稼働と、あっという間に過ぎた2年間でした。導入前は危惧されたことは多々ありましたが、IT化を無事に完了したといえるでしょう。多分、当院の全職員において、紙カルテに戻る選択肢は無くなったのではないのでしょうか。便利なツールなので、今後の診療に大いに役立つものと思っています。

さて、来年は当院の創立75周年の年です。精神医療における精神科病院の役割について、昨今は風当たりが強くなってきました。当院においても、過去の業績を振り返りつつ、将来の病院像を確かなものにしていきたいと思っています。

松江青葉病院 院長 妹尾晴夫

海外出張記

院長 妹尾 晴夫

私は 2014.9.14—2014.9.18 スペインの首都マドリードで開催されたWPA（世界精神医学会議）に、島根大学精神科准教授・宮岡剛先生と出席してきました。スペイン、マドリードまでは、直行便がないので、羽田～ロンドン（12 時間）、ロンドン～マドリード（2 時間半）の長旅でした。経由地のロンドンでは、入国もしていないのに荷物の再検査やセキュリティーチェックが厳しくて、後続便に危うく乗り遅れそうになり、冷や冷やもののフライトでした。どうも、イスラム国との戦争状態のため、空港が厳戒態勢だったためのようなのでした。

学会は、宮岡先生がシンポジストであった免疫系のセッション、自殺のセッション、神経変性疾患のセッション、DSM-5のセッションなどに出席してきました。まあ、日本語ではないので、どこまで理解できているかは、我（？）のみぞ知るといふことにしておきます。

さて、この時期、マドリードは午後 9 時までは明るいので（反対に午前 8 時過ぎまでは暗い）、「地球の歩き方」とともに、レストランとバル（居酒屋）を探索してきました。レストランは食事の量が多いので、結局、バル通いを夜な夜な続けていました。味は日本人好み、値段的には日本と同様だったと思います。アジの酢漬け、タコのマリネ、スパニッシュオムレツ、生ハム等々、ちょっと食べすぎました。

色々書ききれないのですが、そろそろ指定の字数になってしまいました。最後に、海外出張を快く許可していただきました菅野紘理事長に感謝して筆を置かせていただきます。

運 動 会

レクリエーション委員長 高平 靖和

9 月 17 日（水）に青葉病院運動会が開催されました。今年も午前は車椅子、午後は独歩の方を中心にを行いました。

運動機能の低下に伴い、競技内容も限られる中でしたが、例年とは違う新競技もいくつか加えて行い、患者様、職員共に盛り上がり、満足していただけたように思います。



電子カルテ導入雑感

システム管理者 真野 哲夫

パソコン教室開催

電子カルテ導入が決定してから、稼働開始までにしなければならないことがありました。パソコンを使えない人達への対応です。先ず初めにしたことは、パソコン教室の開催でした。内容はマウスの操作、キーボードの操作でした。対象は限定せず希望者で行うこととしました。一週間に1回の開催で、毎回宿題を出して、病棟のパソコンや自宅にあるパソコンで練習をしてもらいました。結果一人の脱落者もなく、本稼働を迎えることができました。

事前の打ち合わせ

導入業者との細部にわたる調整、すり合わせが行われました。この過程で業務の見直しがあり、各部署現行業務の統一、伝票のやりとりについて検討されました。

又、現行システムとの連携においても、現行業務の調整が行われたり、連携のためにシステムの更新が行われたりしました。

本稼働開始から

電子カルテを導入してから、情報の共有が一段と加速されました。従来なら現場に出向いて、紙カルテを閲覧していましたが、現在はどこからでもすべての情報が確認できます。

本稼働当初はデータ入力をするのが精一杯であったのが、今はすこしづつ余裕ができています。いろいろな要求も出る様になりました。現在は電子カルテの機能の一部しか使っていませんが、これからは各機能を使いこなし、チーム医療のツールとして活用できるようにしたいと思います。

そして、恒例にもなってきた職員競技を今年も行い、大変盛り上がり、会場が笑い声で包まれ楽しい時間を過ごせました。

まだまだ反省点・改善点もありますが、患者様の「楽しかった」、「よかった」の声がもっと聞けるよう、レク委員を中心に職員一同今後も引き続き努めていきたいと思っています。



こころの健康

精神科認定看護師 森山 香澄

さて、今回はストレスにも“強い人・弱い人”“ためにくい人・ためやすい人”がいて、このような“個人差”を生む要因の1つが普段の「考え方のクセ」にあるとお話しました。では、どのような考え方ができる人がストレスに強いのかご紹介しましょう。

ストレスに強い人	考え方の傾向
タイプ①：素直で、物事にあまりこだわらない人	いい時もあれば悪い時もあるさ これくらいでもいいじゃないか
タイプ②：楽観的な考え方ができる人	今までもなんとかやってきたじゃないか むずかしいときは人に頼ろう
タイプ③：合理的・柔軟に物事を考えたり対処できる人	いろいろな考え方をしてみよう いつもがむしゃらな必要はない

時には、このような考え方をまねてみることも必要ですよ。



これから冬になるにつれ、日照時間の関係もあるのでしょうか、憂鬱な気分になる人がほかの季節に比べて増えると言われていています。好きなこと、リラックスできること、そして今回お話しした考え方にすることを日々の生活に意識して取り入れることをお勧めします。

高次脳機能障がいグループ活動

デイケア
あおば

地域医療連携室 仲西 秀之

デイケアあおばは、H24年10月から高次脳機能障がいがある方々にもご利用いただいております。当初は人数も限られておりましたが徐々にメンバーが増えていく中、「高次脳機能障がいがある当事者同士で集まりたい」という希望があったことを受け、本年6月より『高次脳機能障がいグループ活動』を開始致しました。

ミーティング、行事の企画・実施、自己表現など、高次脳機能障がいがあるメンバー同士だからこそ理解できる体験や時間を共有できる場所、そしてリハビリにつながる内容を目指し、多職種・関係者の皆様から教をいただきながら実施しております。

日々力不足を痛感する一方、最近高次脳機能障がいを意識した取り組みがデイケア全体に浸透し、活動の幅が広がりつつあると感じます。今後も「高次脳機能障がいがある方々にもご利用いただけるデイケアとして何が出来るのか」、当院デイケアだからこそ地域の中でお役に立てることを試行錯誤してまいります。

編集後記

だんだんと気温が下がり、寒くなってきました。体調を崩しやすい季節なので、手洗い・うがいを行い、これからの季節を乗り切りたいと思います。
※写真はご本人の了承を得て掲載しています。

発行：松江青葉病院 広報委員会 26号編集担当：地域医療連携室